

大原総合花き市場は時代を先取りした独自のシステムを使用している。開始前から約80件の申し込みがあった。セリ前のネット商談に伴い、昭和63年に花一ソナル情報システムの機能を活用した事前販売の増加で、従来の電話や物、鉢物、切り花、苗「花きクラウドシステム」を2月から稼働させ、FAX対応による社員負担軽減につながっている。またクラウドなので

ハンディターミナル機器の活用等、幅広く業界のニーズが取り入れられ、効率的な運用ができていた。ハンディ端末利用による現場でのバーコード管理は作業時間削減に役立ち、手書きであったミスも減少している。

大原総合花き市場

念願のWEB取引開始

新システムで効率・省力化

京都・宇治

として、京都府内一円はじめ、滋賀県、大阪府北部、奈良県北部等の花き関連業者を取り先として、生産者と買参人をつないでいる。これまで同市場で

いたため馴染んでいた段階。今後はまずWEB顧客の稼働率アップによる前売り額の増加や単価の高値安定化、それに付随したデリバリー体制の構築を検討している。近い将来では、卸売市場のハブ化や大手集約が進む中、中小零細市場の生き残り策として同システム利用市場同士のシステムリンクによる業務提携も考えていきたいとしている。



大原総合花き市場外観

同市場のセリ風景